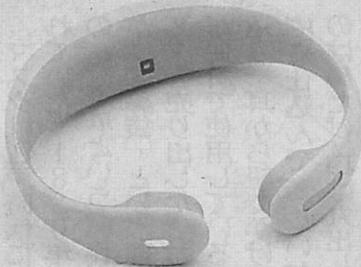


# のみ込む力 正常か識別

## 筑波大発企業が販売 誤嚥性肺炎を予防

入院患者や福祉施設利用者の誤嚥性肺炎を防いでもらおうと、筑波大発の新興企業「PLIMES」（つくば市）は、食べ物を正常



正常なのみ込みの識別に用いるネックバンド（PLIMES提供）

にのみ込めているかどうかを人工知能（AI）で識別するシステム「GOKURI」（GOKURI）の販売を始めた。ネックレスのような「ネックバンド」を首にかけることで、簡単に判別できるという。

誤嚥性肺炎は、口の中の細菌や食べかすなどが誤って気道に入って発症する。病気や加齢でのみ込む力が弱まると、リスクが高まる。

病院や施設では誤嚥性肺炎を防ぐため、言語聴覚士や医師らがのみ込む時の音を聴診器で聴いて、正しくのみ込めているかどうかを判断している。しかし、正確な聞き分けは難しい。

造影剤入りの食品をのみ込んでもらい、X線で調べする方法もある。ただ、患者

の負担が大きいという。

GOKURIでは、センサーが搭載された「ネックバンド」を首にかけてもらい、のみ込んだ時の音を計測する。約2万5000パターンの音を学習したAIが、正常にのみ込めたかどうかを識別する。

インターネットを通じて言語聴覚士や医師、看護師、栄養士ら複数のスタッフで情報を共有することもできる。識別結果を踏まえ、調理方法の改善に役立ててもらうことも想定している。

同社は2018年、筑波大の人工知能研究室や付属病院などの研究成果をもとに創業した。国の支援事業

に採択され、東京医科歯科大や高知大、鹿児島大などからも研究・開発に協力を得てきた。社長の鈴木健嗣・筑波大教授は「体温計で体温を測るように、のみ込む力を手軽に計測できるようにしたい」と話している。初期費用は45万円、年間のリース代金は96万円。同社サイトから申し込める。